

授業 科目名	口腔衛生学 (Oral health)	履修年次: 必修: 歯 1 年	単位数: 2 単位 30 時間 コード:DHB106	担当教員名: 田代宗嗣 〔歯科医師〕 (研究室 教育棟 A407)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ倫理観とプロフェッショナリズム、Ⅲ実践に必要な知識、Ⅴ健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、口腔疾患の発病因子とその予防方法、口腔疾患と社会・生活環境との関連性を学ぶことにより、歯科臨床および地域歯科保健の基礎知識が理解できるようになる。				
〔授業の概要〕 口腔衛生学では、う蝕や歯周病をはじめとした口腔疾患の病因、病態を把握し、これらを踏まえた上で、その予防法が理解できるようになる。さらに個人および集団を対象とした口腔健康管理、歯科保健指導、歯科予防処置の基礎を確立できる。本授業は田代が歯科医師としての実務経験に基づいて学修の支援を行う。				
キーワード: 口腔疾患、う蝕、歯周病、地域歯科保健、疫学				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第 1 回	10/3	総論	口腔衛生学の意義、口腔の健康と予防	
第 2 回	10/10	口腔環境と関連要因(1)	歯・口腔の構造と機能、唾液の性状と役割	
第 3 回	10/17	口腔環境と関連要因(2)	歯の付着物・沈着物の種類と特徴	
第 4 回	10/24	口腔清掃	口腔清掃の意義と口腔清掃法	
第 5 回	10/31	う蝕発生機構と発生要因	う蝕発生メカニズムと発生要因	
第 6 回	11/7	う蝕の予防法(1)	う蝕発生要因に対する予防法(1)	
第 7 回	11/14	う蝕の予防法(2)	う蝕発生要因に対する予防法(2)	
第 8 回	11/21	フッ化物によるう蝕予防(1)	歯のフッ素症、フッ化物のう蝕予防メカニズム	
第 9 回	11/28	フッ化物によるう蝕予防(2)	フッ素の代謝、フッ化物応用の種類	
第 10 回	12/5	歯周病の予防	歯周病の疫学的特徴、全身疾患との関連性	
第 11 回	12/12	その他の口腔疾患の予防(1)	不正咬合の分類およびその原因と予防法	
第 12 回	12/19	その他の口腔疾患の予防(2)	口腔癌、口腔機能低下症等の原因・症状・予防	
第 13 回	1/9	その他の口腔疾患の予防(3)	口臭の種類と原因、口臭の予防	
第 14 回	1/23	口腔疾患の疫学	う蝕の疫学、歯周病、その他口腔疾患の疫学	
第 15 回	1/30	総括	ライフステージ別にみた口腔管理	
履修条件		特になし		
予習・復習		授業に関する資料を配布するので、予習・復習に活用すること。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ「保健生態学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験（90%）、日頃の学修態度（10%）により総合的に評価する。		

授業 科目名	歯科診断学 (Dental Diagnosis)	履修年次: 必修: 歯 2 年	単位数: 1 単位 15 時間 コード: DHB213	担当教員名: 佐々木みづほ[歯科医師] (研究室: 教育棟 A406)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善, Ⅱ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 各種口腔診査法およびエックス線検査の概要を学び、検査結果をもとに歯科診断に至るプロセスを知る。また、エックス線検査の方法と放射線防護の基礎的知識について理解する。				
〔授業の概要〕 患者の来院から診断に至るまでの医療面接、各種口腔検査およびエックス線検査の意義と方法について、歯科医師としての歯科診療の実務経験に基づき解説する。とくにエックス線検査に関しては、放射線の基礎的知識、エックス線写真の撮影原理と読像、放射線防護について説明する。収集した情報を論理的思考により分析し診断を行うプロセスについて解説する。				
キーワード: 医療面接、口腔検査、エックス線検査、放射線防護、診断				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	10/1	患者の診かた	診断の手順、病歴のとり方	
第2回	10/8	口腔検査法	各種口腔検査の概要、臨床検査の意義	
第3回	10/15	診断のプロセス	診断の目標、鑑別診断	
第4回	10/22	エックス線検査 1	歯科医療と放射線、放射線防護	
第5回	10/29	エックス線検査 2	エックス線画像の形成、歯科におけるエックス線検査 (口内法)	
第6回	11/5	エックス線検査 3	歯科におけるエックス線検査 (パノラマ、セファロ)	
第7回	11/12	エックス線検査 4	エックス線検査における歯科衛生士の役割	
第8回	11/19	歯科診断学のまとめ	修学した内容の要点	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習として教科書を熟読のこと。復習としてプリントおよび教科書の見直しを推奨。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ「歯科放射線学」全国歯科衛生士教育協議会監修医歯薬出版		
参考書・参考資料等		特になし		
学生に対する評価		定期試験 (90%)、学習態度 (10%) により総合的に評価する。		

授業 科目名	歯科矯正学 (Orthodontics)	履修年次: 必修: 歯3年	単位数: 15 時間 コード: DHB214	担当教員名: 科目責任者: 根岸慎一 佐藤輝太 [矯正歯科・歯科医師] (非常勤講師室)
		実務経験のある教員による授業科目		

〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
本授業では①頭蓋顎顔面の発生および成長・発育を理解する。②不正咬合とその原因と発症機序、不正咬合を発症する疾患や先天異常、ならびに不正咬合の予防について理解する。③矯正歯科治療に使われる装置、器具、器材および治療方法について理解する。④矯正歯科治療における歯科衛生士の役割を理解し、説明できることを目標とする。テーマは①総論、②診断学、③矯正治療に関する組織学、力学、④矯正歯科治療の実際、⑤矯正歯科における口腔管理の順で講義を進めていく。				

〔授業の概要〕				
歯科矯正学とは、不正な成長発育による不正咬合や上下顎骨の異常な咬合関係を予防および改善する歯科医学の一分野である。近年わが国においても口腔衛生知識の向上に伴って矯正歯科治療に対する要望は年々高まりつつある。これらをふまえて歯科衛生士として必要な歯科矯正学の基礎および臨床的知識の向上をめざす。授業は講義形式により教授する。				
キーワード: 歯科矯正学、成長・発育、咬合、歯の移動、口腔衛生管理、口腔筋機能療法				

〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/10	歯科矯正学概論・成長・発育	歯科矯正学の概略を理解する。成長と発育の意味と頭部・顎・顔面の成長を理解する。	
第2回	4/17	咬合（正常咬合・不正咬合）	正常咬合・不正咬合の特徴について理解する。	
第3回	4/24	矯正診断、矯正力と顎整形力	矯正治療に必要な診査、分析および診断について理解する。歯が移動する際の歯周組織変化について理解する。	
第4回	5/1	矯正歯科用の材料・器具	矯正用器材の名称と用途について理解する。	
第5回	5/8	矯正装置と矯正歯科治療	臨床例をあげて矯正装置の名称と用途および治療について理解する。	
第6回	5/15	矯正歯科治療の実際	様々な不正咬合の治療の流れについて理解する。	
第7回	5/22	保定と偶発症、口腔衛生管理	保定と偶発症について理解する。口腔衛生管理・矯正歯科における歯科衛生士の役割について理解する。	
第8回	5/29	口腔習癖と口腔筋機能療法	口腔習癖と口腔筋機能療法について理解する。	

履修条件	特になし
予習・復習	予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。
テキスト	歯科衛生士学シリーズ 歯科矯正学 第2版 (医歯薬出版株式会社)
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。
学生に対する評価	定期試験 (80%)、学習態度 (20%) により、総合的に評価する。 なお、課題物がある場合、その評価は日頃の学習態度に含める。

授業 科目名	歯科材料学 (Dental Materials Science)	履修年次:	単位数: 1 単位	担当教員名: 荒川 真[歯科医師] (研究室: A405)
		歯 2 年	コード: DHB215	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践、Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 歯科臨床で使用される歯科材料の種類と使用方法について理解し、口腔の健康管理に貢献できる能力を培うことを目標とする。				
〔授業の概要〕 歯科臨床においては、多岐にわたる歯科材料（金属材料、無機材料、有機材料、複合材料）が使用されている。ゆえにこれら各種歯科材料の物理的、機械的、化学的および生物学的性質を学習する。また、歯科生体材料の具備すべき性質等についても学習する。加えて、実際の歯科臨床との関連性についても理解し、歯科衛生士として備えるべき知識を学ぶ。				
キーワード: 歯科臨床、印象材、模型材、修復材、仮封材				
〔授業計画〕 月曜日 Ⅲ限				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/14	歯科材料の基礎知識①	歯科疾患の概略、歯科診療の流れ、各材料の理工学的性質	
第2回	4/21	歯科材料の基礎知識② および印象材	歯科衛生に関わる材料および印象材の種類、取扱い	
第3回	4/21	模型用材料と その後の技工操作	歯科用石膏の種類、取扱いと技工操作の概要	
第4回	4/28	合着材・接着材	合着材・接着材の種類、適応、取扱い	
第5回	5/12	成形修復材、仮封材、暫 間修復材および仮着用 セメント	成形修復材および仮封材などの種類、適応、取扱い	
第6回	5/19	ワックス、金属およびセ ラミックス	歯科用ワックス、金属およびセラミックスの種類、適応、 取扱い	
第7回	5/26	その他の歯科材料	小児歯科、歯科保存、歯科矯正および歯科補綴にかかわ る材料の概要	
第8回	6/2	歯科材料学のまとめ	修学した材料のまとめ、比較	
履修条件		特になし。		
予習・復習		予習・復習をすることが望ましい。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ「歯科材料」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版		
参考書・参考資料等		特になし。		
学生に対する評価		定期試験（70％）および学習態度（30％）により、総合的に評価する。		

授業 科目名	歯科保存学 (Operative Dentistry and Endodontics)	履修年次:	単位数: 2 単位	担当教員名: 荒川 真 [歯科医師] (研究室: A405)
		歯 2 年	コード: DHB210	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, V 健康づくりの環境の整備・改善, Ⅱ コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
歯の硬組織疾患(う蝕など)、歯髄疾患および根尖性歯周組織疾患の病態および各疾患に対する治療法を説明することができ、歯科保存治療における歯科衛生士の役割が理解できる。				
〔授業の概要〕				
歯の硬組織疾患、歯髄疾患および根尖性歯周組織疾患の病態と、これらの疾患の治療法の概念および臨床術式について、歯科医師としての歯科診療の実務経験に基づき解説する。また、歯科ホワイトニングについての概要を解説し、臨床術式を紹介する。				
キーワード: う蝕、歯髄炎、根尖性歯周炎、保存修復治療、歯内療法、ホワイトニング				
〔授業計画〕				金曜日 IV限
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/11	歯科保存学総論	歯科保存学の領域と分類、歯科保存治療の対象疾患	
第2回	4/18	保存修復学 1	歯の硬組織疾患の種類と病態、窩洞と保存修復治療、MI (ミニマルインターベンション) の概念とう蝕治療	
第3回	4/25	保存修復学 2	保存修復治療の診療ステップ、保存修復治療の準備、歯の切削と窩洞形成、歯髄保護、保存修復の種類	
第4回	5/2	保存修復学 3	コンポジットレジン修復 (1)	
第5回	5/9	保存修復学 4	コンポジットレジン修復 (2)	
第6回	5/16	保存修復学 5	セメント修復	
第7回	5/23	保存修復学 6	メタルインレー修復	
第8回	5/30	保存修復学 7	CR インレー修復およびセラミックスインレー修復、ラミネートベニア修復、合着材および接着材	
第9回	6/6	歯内療法学 1	歯髄炎・根尖性歯周炎の分類と症状、処置方針	
第10回	6/13	歯内療法学 2	歯髄鎮痛消炎療法、覆髄法、生活歯髄切断法	
第11回	6/20	歯内療法学 3	抜髄法	
第12回	6/27	歯内療法学 4	感染根管治療、	
第13回	7/4	歯内療法学 5	根管充填	
第14回	7/11	歯内療法学 6	外科的歯内療法、歯の外傷、歯内療法における安全対策	
第15回	7/18	歯のホワイトニング 概論	歯科ホワイトニングの分類と使用薬剤、オフィスホワイトニングとホームホワイトニング、ウォーキングブリーチ	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習として教科書を熟読のこと。復習としてプリントと教科書の見直しを推奨。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版		
参考書・参考資料等		特になし		
学生に対する評価		定期試験 (90%)、学習態度 (10%) により総合的に評価する。		

授業 科目名	歯周治療学 (Periodontology)	履修年次:	単位数: 1 単位	担当教員名: 荒川 真[歯科医師] (研究室: A405)
		歯 2 年	コード: DHB240	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践、Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
歯科衛生士として、歯周疾患の予防と治療に関わるための基礎知識と臨床術式を理解すること。				
〔授業の概要〕				
歯周疾患の予防と治療に歯科衛生士として関わっていくための基礎知識と臨床術式を理解する。具体的には、①歯周予防の意義、②初診からメンテナンスまでの歯周治療の流れと基本的考え方、③初期治療の概念と重要性、④SRP、歯周外科の種類と準備する器材、⑤歯周治療後における患者側と医療者側からのメンテナンス方法、等について学ぶ。				
キーワード: 歯周疾患、歯肉炎、歯周炎、基本治療、歯周外科				
〔授業計画〕				火曜日 I 限
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/15	歯周治療の概要	歯科診療における歯周治療の意義および概要	
第2回	4/22	歯周疾患の原因と種類	歯周疾患の成因および分類	
第3回	5/13	歯周疾患治療の進め方	歯周疾患を引き起こす口腔内の局所性因子と全身性因子、およびそれらへの対応について	
第4回	5/20	歯周疾患の診査	歯周疾患の各種診査法	
第5回	5/27	歯周基本治療	歯周基本治療の必要性和処置法および治療計画	
第6回	6/3	歯周外科治療	歯周外科の種類と特徴、使用器材および術式	
第7回	6/10	歯周治療としてのリハビリテーションおよびメンテナンス	①咬合調整、固定法など ②メンテナンスの重要性和意義	
第8回	6/17	歯周治療学のまとめ	修学した内容の要点	
履修条件		特になし。		
予習・復習		予習・復習をすることが望ましい。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ「歯周病学」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版刊		
参考書・参考資料等		特になし。		
学生に対する評価		定期試験 (70 %) および学習態度 (30 %) により、総合的に評価する。		

授業 科目名	歯科補綴学 (Prosthodontics)	履修年次: 必修: 歯 2 年	単位数: 2 単位 30 時間 コード: DHB211	担当教員名: 佐々木みづほ [歯科医師] (研究室: 教育棟 A406)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, VI 多職種との協議, Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 歯科補綴治療の概要と種々な補綴装置の特徴を理解し、口腔の健康管理に貢献できる能力を培うこと。				
〔授業の概要〕 実務経験のある歯科医師により、以下補綴学の基礎的知識を修得するための講義および学修の支援を行う。 ・顎口腔系の基本的な形態、機能、咬合 ・歯の実質欠損、歯列の部分的および全部欠損、咬合の不調和等が顎口腔系にもたらす変化および障害 ・歯科補綴物の理解と歯科補綴治療の実際（診療室・技工室）、歯科医師と歯科技工士との連携・協力				
キーワード: 歯科補綴物、クラウン・ブリッジ、部分床義歯、全部床義歯、インプラント				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	4/15	補綴歯科治療の基礎 1	補綴歯科治療の基礎知識	
第 2 回	4/22	補綴歯科治療の基礎 2		
第 3 回	5/13	補綴歯科治療の基礎 3	補綴歯科治療の方法と補綴装置	
第 4 回	5/20	補綴歯科治療の基礎 4		
第 5 回	5/27	補綴歯科治療の基礎 5	補綴歯科治療における検査、診断	
第 6 回	6/3	クラウン・ブリッジ 1	クラウン・ブリッジ治療の概要	
第 7 回	6/10	クラウン・ブリッジ 2	クラウン・ブリッジ治療の流れと診療補助	
第 8 回	6/17	クラウン・ブリッジ 3	クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応	
第 9 回	6/24	有床義歯 1	全部床義歯の概要	
第 1 0 回	7/1	有床義歯 2	全部床義歯治療の流れと診療補助	
第 1 1 回	7/8	有床義歯 3	全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応	
第 1 2 回	7/15	有床義歯 4	部分床義歯の概要	
第 1 3 回	7/22	有床義歯 5	部分床義歯治療の流れと診療の補助	
第 1 4 回	7/24	インプラント学 1	インプラント治療の流れ	
第 1 5 回	7/29	インプラント学 2		
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読。復習にはテキストと配布資料の見直しを推奨。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ「歯科補綴学（第 1 版）」医歯薬出版刊		
参考書・参考資料等		指定しない。必要時に適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験：理解度（80％）と学習態度：積極性および課題の取り組み状況（20％）により、総合的に評価する。課題の詳細や提出方法は授業時間内に説明する。		

授業 科目名	顎口腔外科学 (Oral Maxillofacial Surgery)	履修年次:	単位数:2 単位 30 時間	担当教員名: 酒巻 裕之[歯科医師]、 山口 秀紀[歯科医師] (研究室 A408)
		必修: 歯 2 年	コード: DHB212	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
歯・顎・口腔領域に生じる顎口腔外科疾患の診療において歯科衛生士としての役割を果たすことを目標に、顎口腔外科疾患の診察と診断の介助、口腔外科処置の診療補助、患者の全身評価に関する知識を学ぶ。				
〔授業の概要〕				
今日の歯科医療は単に歯の健康管理だけではなく、より広く口腔全体の健康管理に預かるものとなっている。そこで、この授業は講義形式により、歯・顎・口腔領域に生じる疾患の診断や治療法の観点から学び、取り扱う疾患の概説、治療の原則、手術前・術後の管理に関する知識を学ぶ。各授業で各自が、授業内容に関する試験問題を作成するので、予習をする。また、テーマごとにポートフォリオを利用して授業の振り返りを行う。(本授業はオムニバス形式により行い、口腔外科の疾患治療については酒巻裕之が、歯科麻酔、全身管理については山口秀紀が歯科医師の実務経験に基づき担当する。)				
キーワード: 口腔外科、診断、外科処置、歯科麻酔、全身管理				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	4/10	ガイダンス	歯周組織、顎骨、顎骨周囲の炎症	酒巻裕之
第2回	4/17	口腔領域の炎症	口腔領域の炎症の医療	
第3回	4/24	口腔領域の嚢胞	顎骨内、軟組織に応じる嚢胞	酒巻裕之
第4回	5/1	口腔粘膜疾患	水疱、潰瘍、白斑、色素沈着等の異常	酒巻裕之
第5回	5/8	口腔領域の腫瘍①	腫瘍総論、良性腫瘍、悪性腫瘍、周術期口腔	酒巻裕之
第6回	5/15	口腔領域の腫瘍②	機能管理、歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍、口腔潜在的悪性疾患、	
第7回	5/22	口腔領域の損傷	歯、顎骨、軟組織の損傷	酒巻裕之
第8回	5/29	唾液腺疾患、神経疾患	炎症、腫瘍、口腔乾燥症、神経痛、神経麻痺	酒巻裕之
第9回	6/5	口腔領域の先天異常・変形	顎顔面領域の先天異常、顎骨異常	酒巻裕之
第10回	6/12	血液疾患、出血性素因	血球の異常、出血性素因、止血法	酒巻裕之
第11回	6/19	顎顔面口腔外科の診療①	診察と診断: 医療面接、診療上の注意	酒巻裕之
第12回	6/26	顎顔面口腔外科の診療②	口腔外科小手術、手術器械の準備、注意事項	酒巻裕之
第13回	7/3	顎顔面口腔外科の診療③	全身麻酔法、精神鎮静法、局所麻酔法、	山口秀紀
第14回	7/10	顎顔面口腔外科の診療④	全身管理、採血法、注射法	酒巻裕之
第15回	7/17	顎顔面口腔外科の診療⑤、まとめ	抜歯術、抜歯の偶発症、まとめ	酒巻裕之
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習ではポートフォリオをまとめる。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ「口腔外科学・歯科麻酔学」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版刊		
参考書・参考資料等		歯科衛生士講座 口腔外科学 第2版 古森孝英 編著 永末書店刊、サクシント カラーアトラス口腔外科学 第4版 山内健志 他編 学建書院刊、標準口腔外科学 第4版 野間博康他監修 医学書院刊、現代口腔外科学 第1版 里村一人 他編著 わかば出版刊		
学生に対する評価		定期試験 75%、課題 15%、学習態度 10%により、総合的に評価する。		

授業 科目名	顎口腔機能論 (Therapy of stomatognathic function)	履修年次: 必修: 歯2年	単位数: 1 単位 15 時間 コード: DHB260	担当教員名: 酒巻 裕之[歯科医師] (研究室 A408)
		実務経験のある教員による授業科目		
	[DP] III 実践に必要な知識、IV 健康づくりの実践			
[授業の到達目標及びテーマ]				
本授業では、歯科衛生士として顎口腔機能の機能をサポートできるようになるために、顎口腔機能を理解することを目標に、以下のテーマに関する知識を学ぶ。① 全身状態の把握と歯科診療上の注意点、② 口腔機能に関する検査、③ 摂食・嚥下機能の発達とその異常、④ 言語機能の発達とその異常				
[授業の概要]				
顎口腔機能は、消化器、呼吸器に含まれており、そこに障害が生じるとさまざまな機能障害を伴う。授業は講義形式により、歯科治療時の全身状態の評価・全身管理を要する歯科治療に関する知識、口腔機能の発達不全や機能低下に関する検査法、歯科衛生士の全身疾患を有する患者の歯科治療における診療補助について理解を深める。各授業で各自が、授業内容に関する試験問題を作成するので、予習をする。また、テーマごとにポートフォリオを利用して授業の振り返りを行う。				
口腔外科の歯科医師が顎口腔機能に関する学習の支援を行う。				
キーワード: 顎、口腔、機能、病態生理、全身管理				
[授業計画]				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	5/28	ガイダンス	履修の準備、受講に関する注意事項など	
第2回	6/4	患者情報の把握	全身状態、頭頸部の診査法、バイタルサインの意味と味方	
第3回	6/11	全身評価 術前・術中・術後管理	臨床検査、胸部エックス線検査、心電図、全身評価、術前・術中・術後のモニタリング	
第4回	6/18	口腔機能の発達と推移	「食べる機能」「話す機能」「呼吸する機能」の発達と推移	
第5回	6/25	摂食・嚥下、構音機能	摂食・嚥下機能の獲得とその異常、構音機能とその異常	
第6回	7/2	口腔機能発達不全	口腔機能発達不全に関する検査	
第7回	7/9	口腔機能低下症	口腔機能低下症に関する検査	
第8回	7/16	まとめ	授業全体を通したまとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習ではポートフォリオをまとめる。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ「臨床検査」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版刊、【歯科衛生士版】改訂 全身管理と救急蘇生法 渋谷 鉦 監修 学際企画刊		
参考書・参考資料等		基礎歯科生理学 第5版 森本俊文 他編 医歯薬出版刊、 歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論 第2版」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版刊、他、授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験 75%、課題 15%、学習態度 10%により、総合的に評価する。		

授業 科目名	歯科衛生基礎演習 (Basic Seminar indental hygiene)	履修年次: 必修: 歯 2 年	単位数: 1 単位 30 時間	担当教員名: 科目責任者佐々木みづほ[歯科 医師] (研究室: A406)、酒巻裕之[歯 科医師]、石原和幸[歯科医師]、松 木千紗[歯科衛生士]
			コード: DHB209	
		実務経験のある教員による授業科目		

〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナルリズム III 実践に必要な知識 IV 健康づくりの実践,				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
歯科診療や口腔機能管理時に、患者の全身や口腔状態を把握し歯科衛生士として適切な対応をすることを目 標に、基礎として歯の役割や形態の理解、各種検査法の実践、バイタルサインの把握ができる				
〔授業の概要〕				
本授業はオムニバス形式により実務経験のある歯科医師および歯科衛生士が担当する。歯型彫刻では「口腔 解剖学」の知識をもとに歯の役割、形態を立体的に把握する。細菌学検査では「口腔微生物学」「口腔衛生学」 で習得した齲蝕と歯周病の発症と微生物の関連性を各種検査法の実施や細菌培養、顕微鏡観察から理解する。 生体検査、全身管理と歯科治療・口腔健康管理では「顎口腔外科学」の知識をもとに全身管理下での歯科診療 時の歯科衛生士の役割や全身管理されている患者に対する口腔健康管理を安全に実施するための基礎知識を 習得する。				
キーワード: 齲蝕活動性試験、唾液検査、歯型彫刻、モニタリング、口腔健康管理				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	6/9	ガイダンス	演習の進め方、評価について	佐々木みづほ
第2・3回	6/16	歯型彫刻①	歯型彫刻 (上顎中切歯)	佐々木みづほ
第4・5回	6/23	歯型彫刻②	歯型彫刻 (上顎第1大臼歯)	松木千紗
第6・7回	6/30	口腔領域における細菌学検査①	う蝕活動性試験、歯周病検査、 唾液検査、口腔内細菌培養	松木千紗 佐々木みづほ
第8・9回	7/7	口腔領域における細菌学検査②	口腔内細菌 (う蝕・歯周病) の顕 微鏡観察、スケッチ	石原和幸 佐々木みづ ほ、松木千紗
第10・11 回	7/14	生体検査	体温、脈拍、呼吸、血圧の測定	佐々木みづほ 松木千紗
第12・13 回	7/23	全身管理と 歯科治療	臨床検査 (血糖値の測定) モニタリング (血圧、心電図、 SpO ₂)	酒巻裕之、 佐々木みづ ほ、松木千紗
第14・15 回	7/28	演習のまとめ	本演習のまとめ	佐々木みづほ

履修条件	口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
予習・復習	予習としてテキストや事前配布資料を熟読。復習にはノートの見直しを推奨。
テキスト	歯科衛生シリーズ「臨床検査」医歯薬出版刊、 歯科衛生士版「改訂全身管理と救急 蘇生法」、渋谷 鉦 監修、学際企画刊口腔微生物学、口腔衛生学で使用するテキスト
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。
学生に対する評価	課題・レポート・実技試験 (80%)、学習態度 (20%) により総合的に評価する。